

Ble 57

Art & Design Center News
2022_04 - 2023_03

編集後記

■ 蝉が鳴く暑い日には今年はずっと冬になるのかなと思いきや、年末年始の寒い日にはまた暖かくなるのかなと毎年季節を疑う人です。(J.I)

■ 「ONE PIECE」はシャボンディ諸島まで読みました。途中で読むのが大変だったので、今はYouTubeの最新話考察・ネタバレラジで状況を把握してます。(T.I)

■ 最近イモリを飼いはじめて、可愛い顔もたまにいいので育てるのがめっちゃ簡単です。でもいつか毛玉な生き物を飼いたい。(M.Y)

■ リニューアルした「Ble」はいかがでしたか？これからも楽しい誌面を届けられるよう頑張ります！それから、今年こそ高安優勝してほしい。(M.I)

■ 文章を書くことが初めてでした。よい経験になりました！皆でひとつの冊子を作れて楽しかったです。(S.K)

名古屋芸術大学 Art & Design Center



02-05P

特集「アップサイクルアートに触れる」

坂田 樹 / アーティスト
儀間朝龍 / アーティスト、rubodan代表

06-07P

2022年度 Art & Design Center 展覧会レポート
田村友一郎 PROJECT: T HOUSE OMETENASHIのKOKORO
永島譲二 イラスト展「ヨーロッパ自動車人生活II」
白澤真生 (ドロロップ) 個展 HOME
まぜこみわかめ

08-09P

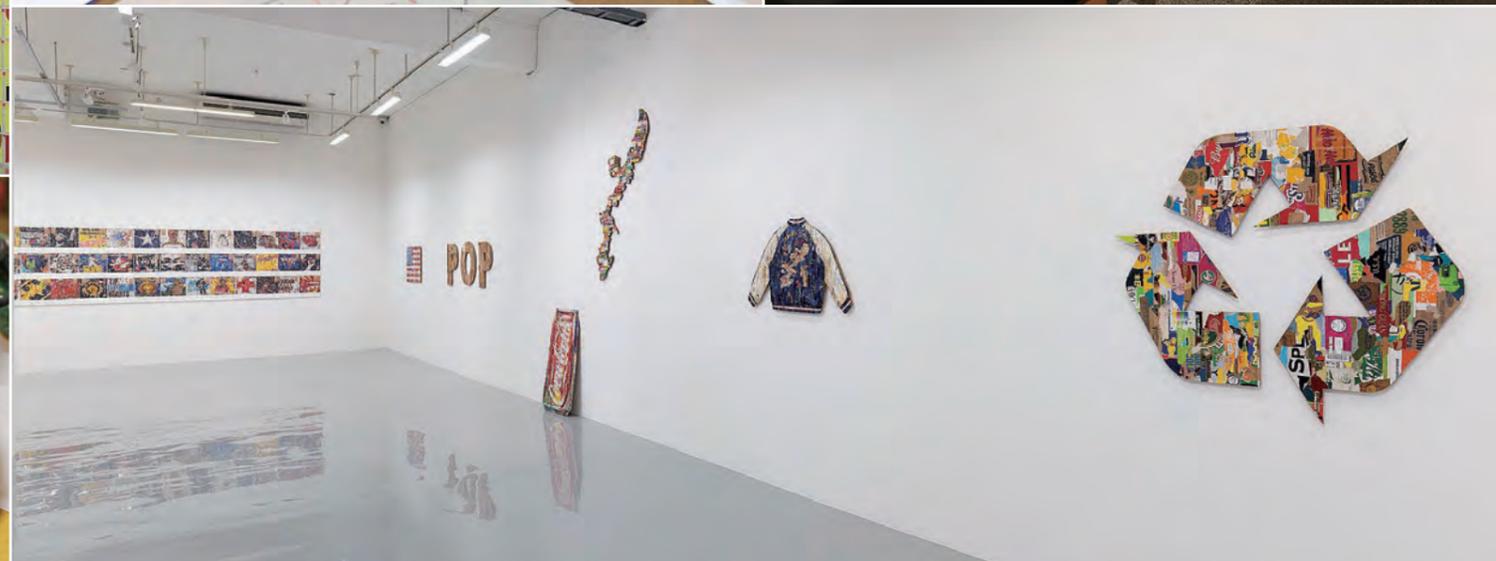
ちょっと行ってきました Vol.1
～ 瀬戸内国際芸術祭 2022 ～

10P

Ble COLUMN
芸術一話

11P

2023年度 Art & Design Center 展覧会スケジュール



アップサイクルアートに触れる

TATSURU SAKATA



坂田 樹 さかた たつる /アーティスト

2019年3月に名古屋芸術大学を卒業後、同大学の卒業生5人組のクリエイターグループ「NoSiA」にて活動。身の回りに溢れるプラスチック廃材を利用した一点物の立体アート作品を制作しています。表面を錆びた金属風に塗装しており、一見プラスチックには見えないようにすることで使用している素材に気づいたときの驚きによる関心を高めます。作品を見る前と後で廃材へのものの見方が変わるような作品を心がけており、「一見無価値に見えるものでも工夫次第で価値を見出せる」ことを伝えられるよう制作しています。

1996年生まれ。愛知県在住。
2019年に名古屋芸術大学卒業。主な展覧会、活動に「クリエイターズロポフェア」出展(2020年 東急ハンズ広島店/広島)、公開制作及びワークショップの実施(2022 PLAY! PARK/東京)、個展「HANDROID-がらくたの価値展-」(2022年 スペース スエハン/愛知)他、各種イベント、百貨店等にて出展。
受賞歴
第77回一宮市美術展 彫刻・立体の部 美術展賞
公募展 いい芽ふくら芽 2022 in Nagoya 入選



個展「HANDROID-がらくたの価値展-」ワークショップ

おもしろいですね! 家具のデザイン、ワークショップの事を勉強されていたのは意外でした。今は廃材を使って作品を作られる事にこだわりがある様ですが、廃材を意図的に使う理由はあるのですか?

S: 在学時のアトリエや自分の家など、身の回りにそういったものがあふれていて、その廃材たちを見て、これ使ったらおもしろいだろうなあ、塗装して加工することで面白い表現が出来そうだなあ、といったか廃材に対して魅力や可能性を感じる様になりました。また近年環境問題が社会的に重要視されるようになり、そういった事を意識し始め、今では廃材をメインに作品を構成するようになりました。使っている廃材も種類が色々あって、分かりやすいところだと壊れたPCのマウスだったりキーボードなど使っていたりしています。ぱっと見、説明しないとわからないようなものもあります。駄菓子屋で売っているラムネがあるのですが、その空の容器を使ってみたりとか(笑)。廃材を見る前と見た後で、もの見方がちょっとでも変われば嬉しいです。捨てる前に何か使えるかもってちょっとだけ思ってもらえれば嬉しいです。



アトリエにて制作中の作品



作品の元となる廃材たち

いろんな廃材が作品に使われていて驚きです。本来捨てるはずの物に新たな価値を見出せている作品ですね。現在はどのような場所で活動をされていますか?

S: 現在は主にギャラリーや百貨店などで作品の展示・販売を行っており、2022年7月、愛知県春日井市にある「スペース スエハン」というギャラリーではじめて個展をやらせて頂きました。「がらくたの価値展」というサブタイトルをつけて。その個展では祝100体目という事で、自分の身長と同じ大きさの作品を展示しました。自分でパネル等を使って展示空間を制作したり、ワークショップを開いたり、学生時代に自分が勉強していた事が活かした展示企画になりました。個展をする事になったきっかけとしては、2022年の1月に栄ラシックの1階にて大学の販売イベントである「NUA ART SHOP」に出品した際に、そのギャラリーのオーナーさんがたまたま来られて、その流れでお話が決まりました。春日井市は僕の現在の制作アトリエの拠点なので、運命的というか嬉しかったですね。他には東急ハンズや香嵐渓紅葉まつりなどで販売を試みています。

様々な場所で活動されていらっしゃるんですね。今後はどんな事に挑戦していきたいですか?

S: 展示や販売の傍らで、学生時代に頑張っていたワークショップの企画はまた今後も開催できたらなあと思っています。ただこういう作品制作をワークショップにするには少々難しいところがありまして、塗装する時は自然乾燥の時間を挟むんですけど、ワークショップの際はドライヤーで乾かして時短したりしています。本当は早くても制作には3日くらいは欲しいですね。(笑)なので、今後は1日で完結できるようなワークショップも考えていきたいと思っています。あとは、大型の作品をもっと制作していきたいですね。今のアトリエはDIY自由なので、その辺ももっと制作が捗るような空間づくりをしていきたいです、スペースデザインコースでの学びが活かれますね。(笑)物を捨てる前にちょっとだけ考える、考えてもらえるような、見てもらえた方の意識がちょっとだけ変わるような作品を制作していきたいです。

ありがとうございました!



個展「HANDROID-がらくたの価値展-」(スペース スエハン/愛知)



近年SDGsという言葉をよく耳にします。アートの世界においても捨てられるはずだった廃棄物を、別の新しい作品として生まれ変わらせた作品、「アップサイクルアート」が話題となってきています。今回は名古屋芸術大学を卒業生後、アップサイクルアートというカテゴリーで活躍されているアーティスト2名を特集しました。

「アトリエにお邪魔してお話を聞いてみました!」

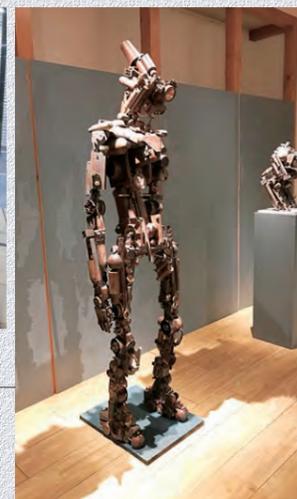
どんな素材を使って作品を制作していますか? 作品のモチーフなどあれば教えてください。

坂田(以下S): 主にプラスチックの素材を中心に、廃材になって使われなくなった物、電子機器の一部や、使われなくなった容器などを使っています。自分の身の回りから出た廃材とか、知人から譲って頂いた物など、あまりこだわらずに素材を集めて制作をしています。金属も一部使っているのですがやはり接着が難しく、今までいろんな素材で試しましたが今ではプラスチックをメインに制作しています。プラスチックにも色々種類があって、少し柔らかい、しなる系だと塗装した時に剥がれやすいので、硬い硬質系のプラスチックが使いやすいですね。作品は主にロボットをイメージして作品を作っています。子供の頃からそういうのが好きだったので。ガンダムとか戦隊ものとかが好きで、その辺が作品のルーツ、背景になっています。



「CreFes 2022」内、「NUA ART SHOP」(栄ラシック/愛知)

作品名:「100.1 am」
サイズ:600x600x1800mm
素材:掃除機、ライト、プリンター用紙の筒、プラスチックボトル等
100体目に作ろうと思っていた自分と同じサイズの作品。社会人として働いていた自分から心機一転、作家として活動していく新しい自分をイメージし作品名を「1 am」とした。



大学在学時の頃からこのような作品(立体作品)を専門として制作されていたのですか?

S: いえ、実はそういう訳ではなく、在学時はスペースデザインコースというところで建築や家具のデザインを学んでいて、その中でも家具のデザインを中心に学んでおりました。また自分がデザインした家具や什器を生かしてこども向けのワークショップを考えたりもしていて、卒業制作展では持ち運び可能なワークショップの為にキットを制作していました。見た目はスーツケースのようなもので、その中を開くと工作系のワークショップのキットが入っているようなものを作って、展開することでワークショップ空間が出来上がるような、出店型ワークショップキットの提案をしていました。今のような作品はその傍らで、最初の頃は完全に趣味で作っていて、当時の大学のデスクに、インテリアとして数点飾っていた程度でした。こんなん作ったんだって友達に自慢しているような、そんな感じでした。(笑)その流れで大学の学祭で作品を出店販売したのが最初でした。このときはまだ廃材とかこだわっていないので、プラモデルのパーツとか使っていました。



作品名:「158.heavy and deep」
サイズ:150x450x300mm
素材: マウス等
クジラをイメージした作品。流線型を意識しなるべく丸みのある素材を使用しました。



アトリエにて制作姿

ダンボールアート作品が作られるようになったきっかけ

那覇の公設市場内でアトリエを構えていた時期に、世界中から届いた商品が入っていたダンボールを使って何か出来ないかなと思っていました。ある雨の日に濡れたダンボールを見かけたことがきっかけで、水に浸けて糊を溶かして剥がせることを発見し、以降「流通」と「消費」をコンセプトにコラージュ素材として使用しています。

現在の取り組み、制作について

4月に韓国のギャラリーのグループ展に参加します。今はその準備をしています。その後は沖縄、東京と予定している展示に向けて製作を行います。

現在北京で行われている A BATHING APE®のグループ展が6月まであります。その後、ニューヨークそして東京でも展示されるそうです。

今後の活動や目標

まだまだ発表しきれないいくつかのテーマの作品展を数年かけて発表予定です。コラージュ制作だけではなく、ダンボールを使った新しい表現も実験しています。ちゃんとまとめて展示会ができればと思っています。国内だけではなく、海外でも展示会が開けたらと思っています。また、ダンボールから紙にする方法を「SIMPLE PAPER MADE」と名付けてワークショップをしているのですが、今後は企業や行政、または離島などと一緒にゴミを減らしながら、商品を作り、雇用を造成できるようなことができればと思っています。



ダンボールを集める儀間氏



「儀間朝龍展 POP OR END」設営風景

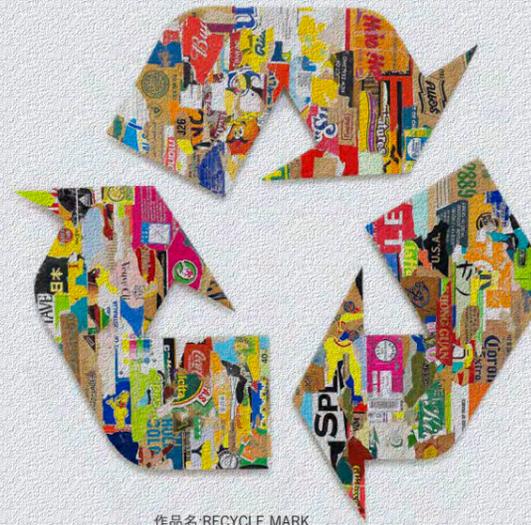
TOMOTATSU GIMA



儀間朝龍 ぎまともたつ / アーティスト、rubodan代表

「ダンボールを分解して新たなものを生み出す」をコンセプトにしたダンボールステーションナリーブランド「rubodan(ルボダン)」を考案・発表。以降廃ダンボールを使用した「POP COLLAGE(ポップコラージュ)」シリーズを制作。
『消費』と『流通』という問題をテーマに作品を制作しています。

1976年沖縄県生まれ。名古屋芸術大学美術学部日本画コースを卒業し、2000年に版画コース研修生を終了。2004年にNYへ留学の後、沖縄をベースに活動を続ける。2018年、東京での初個展『SOME POP』をBEAMS JAPAN B GALLERYにて開催し大きな反響を得る。主な展示会に、「トヨタ・子どもとアーティストの出会い〜子どもの可能性を開くアートの力」(2006年/沖縄)、「WANAKIO」(2008年 前島アートセンター/沖縄)、「祝CAMKI9周年!九州アート全員集合展」(2012年 熊本市現代美術館/熊本)、「rubodan 段ボールのステーションナリー展」(2013-15年 D&DEPARTMENT OKINAWA/沖縄)、「企画展「宮崎アーティストファイルカラフル展」(2017年 高鍋町美術館/宮崎)、「グループ展「FAGOCIOUS」(2019年 The Workshop London ロンドン)、「23」(2020年 wearasterisk/香港)、「LP+SNEAKER POP」(2022年 hotel koe tokyo/東京)、「儀間朝龍+藤代冥砂 展覧会「CITRUS & SUN DANCE」(2022年 Roll/東京) MILK magazineでの特集記事(2021年/香港)他、GUCCI、adidas、le coq sportif、A BATHING APE®などのブランド、展示会、企業とのコラボレーションなど多数



作品名:RECYCLE MARK
サイズ:1500x1500mm 素材: cardboard



「儀間朝龍展 POP OR END」会場風景



「儀間朝龍展 POP OR END」会場内に学生たちにレクチャーする儀間氏

展覧会

儀間朝龍展 POP OR END

会期: 2022年6月2日(木)~6月14日(火)
場所: 名古屋芸術大学 Art & Design Center West

「ダンボールでスニーカーを作っている人がいる」と聞いて儀間さんの名前を検索したのが2020年の春。当時のインタビューでの「いくつか名芸で展示会を」の言葉から思いがけなく早くこの展示会が実現しました。エントランスからラウンジまで続くダンボールの道。儀間氏の初期作品やモチーフになったキャラクター等の雑貨の山を通り過ぎてギャラリー空間に入ると、特別協力で関わった豊嶋秀樹さん(gm projects)によってミリ単位で構成された近年の作品が並びます。スニーカーなどのポップな作品だけでなく、その背景や制作の核にある「流通と消費」という儀間さんのテーマが自然に見る者に伝わる展示になりました。オープニングでは大学協力のもと、作品モチーフにもあるコーラで乾杯しました。もちろん来場者はマスク着用、従来のように飲みながら鑑賞し語り合うことはできませんでしたが、久しぶりに見た乾杯の光景は、大げさですがコロナ禍の今の世界を拓く一筋の光のように感じました。会期中、週末二日間に渡って行われたワークショップでは、直前に地元メディアで取り上げられたことも手伝い、家族連れの参加者で賑わいました。この展示会の為に制作された「RECYCLE MARK」は大学の卒業生作品コレクションとして買い上げられたので、また学内で展示される機会があるかと思っています。この規模の展示を同窓会主催でそしてこの場所で実現できたこと、関わって下さった全ての方へ感謝致します。ありがとうございました。(名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会)





W

Report

田村友一郎PROJECT: T HOUSE OMOTENASHI NO KOKORO 2022年9月19日[月・祝]ー10月11日[火] Art & Design Center West

会場は襖を開ける所から始まり、足を踏み入れるとネオ東京を彷彿させる近未来感漂う異色な世界が確立された空間になっていました。
田村先生がこれまで制作した作品の中から厳選して創られた世界の背景にも、過去の展示で使用した音響を用いることで会場は常に異色に包まれており、外国人が日本文化にカルチャーショックを受ける心境と似たような感覚に陥りました。

私は今回スタッフとして黒子に扮し、会場内を周り、来場者にお茶を手渡していました。
自ら客観視したこの黒子という存在は、姿の見えない概念を持ちながらもその場の作品達と相似しているインパクトがあり、黒子という存在の差し添えにより会場内の魅力も一層光ったのではないかと感じました。
芸術学部芸術学科美術領域洋画コース
卒業生 細江 波瑠



W

Report

白澤真生(ドロロープ)個展 HOME 2022年6月17日[金]ー6月22日[水] Art & Design Center West

ギャラリーには豊かで楽しげなムードが充満する心地よい空間が広がっていた。しかしグラフィックデザイナーとしての白澤真生展を期待すると意外に感じた人もいたかもしれない。なぜなら社会で目にする彼の仕事より、白澤真生自身の心情や家族、室内など彼の「個」から生まれたイメージや「個」からの探求による作品が多く目立つからだ。まさに白澤真生「個」展。このコロナ禍において半ば強制的に「個」に向き合ったことが彼の思考を強化した様子が想像されるし、この特殊な状況におかれたことが新たな展開を生ませた

のかなとも感じさせられた。「個」と「社会」を対極とする展覧会タイトルの「HOME」は個を包み発想を育む場所なのだろうか。この個展が彼の母校で開催されたことも考えると「HOME」は個から社会への中間地点なのかもしれない。「個」「HOME」「社会」を横断する白澤真生の特性が浮かび上がる鮮やかな展覧会であった。
芸術学部芸術学科デザイン領域イラストレーションコース / ヴィジュアルデザインコース
准教授 片山 浩



E

Report

永島譲二 イラスト展『ヨーロッパ自動車人生活II』 2022年11月4日[金]ー11月16日[水] Art & Design Center West / East

自動車雑誌CAR GRAPHIC誌上に毎月掲載されるイラストレーションの作者である永島譲二氏はプロのカーデザイナーであり、歴史的な史実を踏まえて自動車の形態の魅力を追及する研究者でもあります。彼の作品群を集めてその世界感を感じたいと言う想いが展覧会企画の始まりとなりました。今回の展覧会の為に制作された新作を含めて100点を超える作品を一堂に集めて「ヨーロッパ自動車人生活II」と題したイラストレーション展を開催する事が出来た事をうれしく思います。彼の作品は自動車を写実的に捉えたイラストレーションとは異なりデザイナーとして自動車を造形する立場から、対象とする車を取り巻く様々な要因を考察して形態と

その周りの雰囲気や表現しています。自動車の形態を研究し表現して行く彼の仕事は自動車の形態の魅力とは何かと言う解を探す終わりのない航海のようにも思えます。その「永島譲二の世界」がいつまでも続く事を願わずにはられません。
芸術学部芸術学科デザイン領域カーデザインコース
教授 高次 信也



E

Report

まぜこみわかめ 2022年6月24日[金]ー7月6日[水] Art & Design Center East

「もっと領域とかコースとか関係なく何かやれたら面白そうだよね〜」1年生の時に私たち2人で話していたことを、卒業を目前に控えた4年生になり、やっと実現することができました。
この4年間、様々な特色を持った学生がいるにも関わらず、それらが独立してしまっているように感じる瞬間が多くありました。一緒に企画を行うことで化学反応があるのではないかと考えたことが「まぜこみわかめ」をやろうと思ったきっかけです。
また、せっかく東キャンパスにギャラリーができたのだからもっと東キャンパスで学んでいる学生が入りやすい場にしたいと思い、演奏会兼展覧会という形で開催しました。音楽領域のさまざまなコースの学生のコンサートを毎日開催するとともに、音楽からインスピレーションを受け製作されたデザイン領域の学生の作品展示も行い、とても中身の濃いイベントとなりました。

会期中の2週間は、ちょっとしたお祭りのような雰囲気や、毎日お昼になるとTERA(※東キャンパスにある交流テラスのこと)が賑わい、ギャラリーに足を踏み入れたことがなかった学生も気軽に入れる空間になっていたと思います。
「まぜこみわかめ」が終わってから、東キャンパスの学生がギャラリーに足を運ぶ様子が以前より多く見受けられるようになりました。今後もこのギャラリーが、今回のようなさまざまなコースや領域の学生がコラボレーションする場となれば嬉しいです。
芸術学部芸術学科芸術教養領域リベラルアーツコース
卒業生 田坂 美夢
芸術学部芸術学科音楽領域音楽総合コース
卒業生 武石 智仁

ちょっと行ってきました◎

Vol.1!

瀬戸内国際芸術祭 2022

10/21-10/22

瀬戸内国際芸術祭の会期以外でも、作品鑑賞できます!

直島 NAOSHIMA

直島は比較的作品が密集しているのとても回りやすい島です。中でも「家プロジェクト」は全部で7作品、すべてが徒歩圏内で飲食店も多くあります。芸術祭を廻る時間が少ない方や、自動車や自転車をレンタルしないで廻りたい方にオススメです!



妹島和世+西沢立衛/SANAA
Kazuyo Sejima + Ryue Nishizawa
直島港ターミナル
2017



基金会 須田悦弘 Yoshihiro Suda
基金会 2006
現地にはそれぞれの作品にスタッフさんがいらしゃいます。いろいろ作品の秘密を教えてくださいますよ。この竹も...



家プロジェクト はいしゃ
大竹伸朗 Shinro Ohtake
舌上夢/ポッコン眼
2006



三分一博志 Hiroshi Sambuichi
The Naoshima Plan 「水」



地中美術館
建築:安藤忠雄
アート:クロード・モネ、ジェームズ・タレル、ウォルター・デ・マリア



草間彌生 Yayoi Kusama
赤かぼちゃ
2006
宮浦港緑地



大竹伸朗 Shinro Ohtake
直島銭湯「心湯」
2009
実際に銭湯に入れます! オリジナルのタオルやグッズも購入できちゃいます(私はタオルを買いました)作品を眺めながらお風呂に入れるなんて贅沢!!

今回は全国で多く開かれている芸術祭の中でも瀬戸内の海、島々を会場とした瀬戸内国際芸術祭へ出かけました!
瀬戸内国際芸術祭では、アーティストが島の環境や空き家に合わせて作品が制作され、その場でなければ観ることのできない作品や体験できないプログラムが多く点在しています。
その中でも「直島」「豊島」「犬島」を実際に旅し、島巡りコースやあったら便利なもの、実際にあったエピソードなどを添えてご紹介します!

- 1日目**
- 高松港 → 本村 → ① → ② → ANDO MUSEUM (中津川) → ③ → ④ → 石橋 → 南寺 → 角屋 (千住博) (宮島 運集) → 護王神社 → ⑤ → ⑥ → 直島パブリオン → ⑦ → 宮浦港 → 高松港
- 2日目**
- 高松港 → 家浦港 → ⑧ → 唐櫃港 → ⑨ → ⑩ → 唐櫃港 → 犬島港 → ⑪ → ⑫ → ⑬ → S邸/コンタクトレス (荒神 明希) → A邸/イロ-フラク-ドリー-4 (ベアリス・ミル・ヴェス) → C邸/無題(C邸の花) → I邸/Self 1009 → ⑭ → 犬島港 → 土庄港(小豆島) → 高松港

犬島 INUJIMA

犬島は、島のサイズとしては小さく1日あれば全ての作品を歩いてみる事ができます。犬島精錬所美術館では、美術館とは思えないような外観と体験に驚かされます。



犬島精錬所美術館
アート:柳幸典
Yukinori Yanagi
建築:三分一博志
Hiroshi Sambuichi
2008



犬島「家プロジェクト」F邸
名和晃平 Kohei Nawa
Biota(Fauna/Flora)
2013



犬島「家プロジェクト」石職人の家跡
浅井裕介 Yusuke Asai
太古の声を聴くように、昨日の声を聴く
2013-2016
Sprouting 01 2016



フラワーフェリーダンス
大宮エリー Ellie Omiya
2022

犬島

犬島には犬がいっぱいいるわけじゃないねごがいる

行きたいところめっちゃある!

よくばっこ!!

高速船はめっちゃ速いからすぐ着!

家プロジェクトは歩いておられる!!

どの島も自然がいっぱいで海もキレイ!

自転車でいってみたい



直島

瀬戸内国際芸術祭2022

春会期:2022年4月14日(木)~5月18日(水)
夏会期:2022年8月 5日(金)~9月 4日(日)
秋会期:2022年9月29日(木)~11月6日(日)
会場:直島/豊島/女木島/男木島/小豆島/大島/犬島/沙弥島[春のみ]/本島[秋のみ]/高見島[秋のみ]/粟島[秋のみ]/伊吹島[秋のみ]/高松港周辺/宇野港周辺/広域・回遊
主催:瀬戸内国際芸術祭実行委員会
会長:池田豊人【香川県知事】
名誉会長:真鍋武紀【前香川県知事】
副会長:泉雅文【香川県商工会議所連合会会長】/大西秀人【高松市長】
総合プロデューサー:福武総一郎【公益財団法人福武財団理事長】
総合ディレクター:北川フラム【アートディレクター】

今回で5回目となった瀬戸内国際芸術祭2022では、「海の復興」をテーマに掲げ、瀬戸内海の12の島と2つの港を会場に33の国・地域から184組のアーティストが参加し、214作品が各地に並んだ。3会期に渡り105日間行われた芸術祭では計723316人が来場した。この芸術祭は3年に1度開催される。

一言アドバイス

秋の時期は比較的過ごしやすく、歩き回るにはちょうどいい会期です。夕方になると一気に寒くなるのでウィンドブレーカーなどがあるととても便利です。
船は高速船(早くて高め)、フェリー(遅くて安い)があり、多くの時間を有効利用するためにも場所場所を使い分けましょう!
今回は高松市へ宿をとり毎回高松港から出港して、夕方には船が順次最終便が出てくるので夕食は高松市内で四国名物を食べました。港からは徒歩圏内に飲食店も多く、商店街やお土産売り場もあるのとても便利です(骨付き鳥は絶対食べてほしい!)
ボランティアさんが各所に必ずいらしゃいます。とても親切でおススメの場所や作品へのルート、乗り物の時刻など丁寧に教えてくださいます。ぜひお話しをしてみましょう!

豊島 TESHIMA

豊島は港が2つあり、島と島の乗り継ぎが多いので間の時間を使って上手く廻ることができます。作品同士の距離が離れていますがバスが主要作品を通して巡回しているので計画をしっかりと立てればゆっくりと回れますよ。



豊島美術館
アート:内藤礼
建築:西沢立衛
母型
2010
館内だけでなく、外も瀬戸内海の壮大な景色を見ながらゆっくりと過ごせるので、お弁当など持ってきててもよいかも。時間に余裕をもっていくといいですよ。



勝者はいないーマルチ・バスケットボールイオペット&ポンズ
Llobet & Pons
2013



心臓音のアーカイブ
クリスチャン・ボルタンスキー
Christian Boltanski
2010
ちょっと入った際にボルタンスキーの心臓音が1国や人が違うだけでこんなにも違いがでるのかと驚きです!ご自身の心臓音もアーカイブ化できます(有料)。

あると便利

- ・ **パスポートケース** / 展示会場ごとにスタンプを押すので肩や首から掛けられるものがあるととても便利!できれば色々もらえるパンフレットやスマホが入るサコッシュがあると便利です。公式グッズでも販売していました。
- ・ **ビニール袋やジップロック** / ゴミが入れられるのはもちろん、砂浜で拾ったシーグラスや思い出の葉っぱなどちょっとしたお土産を持って帰るのに便利です。
- ・ **お弁当の調達** / 土日祝は島によっては食事難民になってしまいます。作品を廻るのを優先したい方は船に乗る前にお弁当を持って行くのが吉。芸術祭が主催しているマルシェも有効に利用しましょう。

神谷 思摩

古い町並みの有松。ある家でジャズセッションコンサートが開かれた。これは私の幼き頃の記憶。薄暗い頃だ。趣のある屋敷の敷居をまたぐと、空気が変わった。静寂な空気につつまれる。中庭には、キーボードをはじめ、打楽器、弦楽器、木管楽器がぼんやりとしたあかりに照らされていた。開催時刻になると、途端に熱量があがる。初めて聴くジャズセッション。アーティストの方々が、それぞれかけ合い奏ではじめた。目と目で会話をし、身体の中にある感情を自由に、気持ちよさそうに、奏でていた。とても楽しそうだった。楽器もアーティストの汗もキラキラと輝いていた。聴いている側も胸がリズムを打ち、心ときめいた。和と音楽の調和が心地よかった。こんな音楽があるんだ!と発見した瞬間だった。

この感覚をわが子にも味わってもらいたいと、この度ジャズコンサートに行ってきた。息子は、楽器など全くもって素人だが、中学からブラスバンド部に所属し、メンバーと音を合わせることを楽しんでいる。会場は都会から離れた場所のコンサートホール。舞台の上はあたたかな空気に包まれ、しっとりとした時間がながれた。アーティストの人格、優しさやあたたかさが伝わるコンサートだった。隣に座っている息子は、こっそり、他に気づかれない程度に足でリズムをとっていた。何かを感じ取れただろうか。彼の中で種となり成長してくれたらうれしい。まじめな息子には、このコンサートで、音楽はもっと自由なんだとか、一つじゃないということを得てほしかった。

音とは奏でればその瞬間から消えていく。いや、消えていくのではなくその瞬間から私たちの心に蓄積されていくのかもしれない。とても貴重なものだからこそ、記憶に残るのかもしれない。私の幼き頃のジャズコンサートのように。私によい経験を与えた母に感謝。

自宅ではバスクラリネットを練習する次男

自宅ではバスクラリネットを練習する次男

市原 萌絵

昆虫は皆さん好きですか?山や公園で捕まえたことはありませんか?

東海地方には岐阜県の名和昆虫博物館や静岡県磐田市竜洋昆虫自然観察公園など、虫を見られるスポットがたくさんありますが、30年以上生きてきて一度も行ったことがありませんでした。なぜならば虫に少しも興味がなかったから。

ですが、そんな自分の心に突然飛び込んできた動画がありました。石川県ふれあい昆虫館のYouTube公式チャンネル「ふれこんチャンネル!」です。

初めに目にした動画は「職員対抗 学芸員七種競技」。3名の学芸員が標本制作で使う針の太さ当て、昆虫クイズなどをクリアして速さを競うというもの。私も美術館で働いていたことがありますが、美術の学芸員とはまったく仕事の内容が違います。他にも虫採り対決や昆虫名でしりとりなど、約10名の職員の個性が爆発。もともとプロフェッショナルが専門分野を解説するのを見るのが大好きな私、こういう動画をもっと見たい!いつか美術館や博物館の学芸員にもやってみてほしいと切に願います。全国の学芸員のみなさん、いかがですか?

思いが募り、先日石川県ふれあい昆虫館を訪ねました。SNSを担当されている学芸員の齊木亮太さんにお話を伺ったところ「もともと職員たちは休日虫採りに行くほど昆虫が好き。ライフワークとして虫と関わっています(自分は休みの日は行きませんが...)。動画の中では持っている知識や経験を活かして企画に挑戦してくれています」と教えていただきました。豊富な知識を惜しげもなく披露する職員の皆さん! SNSの利用者層に合わせそれぞれ違った内容を展開し、ターゲットを絞った緻密な戦略を練られているのも印象的でした。

たくさん動画を見たことに加え3歳の息子が虫に興味を示し始めたので、苦手な足の多い虫なんかに「ギヤア」と言わないように頑張っ、次の夏にはカブトムシを手で掴めるようになるのが目標です。



お気に入りの虫柄Tシャツを着た子どもと昆虫館にて。蝶が飛び回る「チョウの園」は約1,000頭飛んでいるそう!

Information

石川県ふれあい昆虫館
石川県白山市八幡町3
TEL 076-272-3417
https://www.furekon.jp/
YouTubeは「ふれこんチャンネル!」で検索
(https://www.youtube.com/@kuwakichi)

芸術一話

ART WORDS FROM THE ART WORDS

32

キュレーター

藤木 洋介

Yosuke Fujiki Van Gogh Co., Ltd.



磯間朝龍 + 藤代冥砂 展覧会「CITRUS & SUN DANCE」@Roll
©Yosuke Fujiki Van Gogh Co., Ltd.

Future of 20 years ago.

こんにちは、初めまして、藤木洋介と申します。僕は公立美術館や美術施設、ギャラリーなどの展覧会の企画を担うキュレーターと呼ばれる仕事をしています。美術館の学芸員のような仕事です。

これまでではどこの空間をお借りして様々なアーティストの展覧会を開催してきましたが、どこかの空間をお借りするということが、どうしてもその場所それぞれの条件というものがあるため、自分が好きなアーティストなら誰でも展覧会を開催できるというわけではありません。そこで考えたのが自分の空間を立ち上げることでした。2021年7月に東京(神楽坂)に作った「Roll」というこの小さなギャラリーは、アートを通して人間の関係性が回っていくことを目指して名づけました。年間を通して様々なアーティストを紹介し、2023年1月時点で20回目の展覧会を迎えます。

そしてその一年後の2022年9月に、僕の大親友の岡村忠征が「Stranger」という映画館を東京(菊川)に立ち上げました。49席という小さな映画館ですが、ジャン・リュック・ゴダール特集を皮切りに、彼らしいハイセンスなラインナップで日々素晴らしい映画を上映し、人々を楽しませています。

そんな僕らの小さな物語は20年前に遡ります。渋谷のラブホテル街として有名な円山町の古いマンションの一室(六畳一間)に二人で住んで、貧乏暮らしの日々の中でお互いの夢を語り合っていました。僕は不真面目なので、夜の街に繰り出しては安酒を呑んで友人と騒ぎ、朝方帰宅してそのままベッドに倒れ込むという酷い生活を繰り返していましたが、彼はデスクと化した押し入れの中で映画を観ては映画批評や映画雑誌を読み漁り、自ら脚本を書いたり映画の仕事に出掛けたり、ただただ映画に夢中で、おそらく人生のすべてだったのだろうと想像します。

あれから20年という時が過ぎました。人生なんて本当にあつという間です。あの頃描いていた僕らの夢は今、ギャラリーと映画館という空間となってそれぞれの目の前に現れ、この20年でお互いが培ってきた経験を活かし自らが選んだアートと映画を紹介しています。そして今、20年後を想像しながら生きています。

過ぎ去った時間、確かに経験したはずの過去はいつも想像の世界に変わっていきます。人間は先に進むことしかできない素晴らしい生き物だと僕は思います。けれどその想像の世界こそが、今日の前にあることの源泉であり、僕らが人生をかけて作ったギャラリーや映画館という姿形に変わったのだと思います。そう、想像こそが目に見える姿形のすべてなのだと思います。あなたの20年前の未来は、どんな姿形でしたか?

Roll 東京都新宿区揚町2-12 No.105 / Tel. 080 4339 4949 / Website. https://yf-vg.com/
Stranger 東京都墨田区菊川3-7-1 菊川会館ビル1F / Tel. 080 5295 0597 / Website. https://stranger.jp/

EXHIBITION 2023 04- 2024 02 Schedule



Art & Design Center West(西キャンパス)
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 B棟1階
開館 12:15-18:00 / 木・日曜休館
展覧会によって変更になる場合があります。

入場無料 どなたでもご覧いただけます。

スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

Art & Design Center East(東キャンパス)
〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地 6号館1階
開館 12:15-18:00 / 木・日曜休館
展覧会によって変更になる場合があります。

入場無料 どなたでもご覧いただけます。

スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

- 4/ 1回 → 4/ 13回 ④ デザイン領域レビュー選抜展
- 5/ 6回 → 5/ 16回 ④ Stone Letter Project #6
- 5/ 19回 → 5/ 24回 ④ アークリ博覧会 2023
- 5/ 26回 → 5/ 31回 ④ ダーク展(仮) スギナ日本画展 BE be・studio
- 6/ 2回 → 6/ 7回 ④ 大文芸展 BE be・lounge studio
- 6/ 9回 → 6/ 14回 ④ O.X(レインテックス)卒業展示のためのβテスト BE・be
- 6/ 16回 → 6/ 21回 ④ Reserve展 BE・lounge be・studio
- 6/ 23回 → 6/ 28回 ④ プレソツ展 BE
- 6/ 30回 → 7/ 5回 ④ 三人展 大学院 コミュニケーションデザイン&アート演習展示 consolare be・studio lounge
- 7/ 7回 → 7/ 12回 ④ スペースデザインコース展 2023年度 前期交換留学生展 be・studio・lounge
- 7/ 14回 → 7/ 19回 ④ 【工芸リレー】CONNEXT2023 陶ガラス教育機関講評交流展
- 7/ 21回 → 7/ 26回 ④ 【工芸リレー】「素材展」メタル&ジュエリーデザインコース
- 7/ 28回 → 8/ 2回 ④ 【工芸リレー】テキスタイルデザインコース 前期制作展 「素材展」
- 9/ 22回 → 9/ 27回 ④ 石塚硝子x名古屋芸術大学工芸コース 容器プロジェクト(仮)
- 9/ 29回 → 10/ 4回 ④ 大学院 同時代表現研究科・岡川中田松岡ゼミ室展 書道アート展II BE be・studio・lounge
- 10/ 6回 → 10/ 11回 ④ 日本画3年コース展
- 10/ 13回 → 10/ 18回 ④ 助手展
- 10/ 19回 → 11/ 15回 ④ 【企画展】anno-labo
- 11/ 17回 → 11/ 22回 ④ MCD デパートメント BE be・studio・lounge
- 11/ 24回 → 11/ 29回 ④ 粘土アート展 2023 2023年度 後期交換留学生展
- 12/ 1回 → 12/ 6回 ④ 先端メディア表現コース展
- 12/ 8回 → 12/ 13回 ④ 洋画コース2・3年生 選抜展
- 12/ 15回 → 12/ 20回 ④ 工芸展2023(仮)
- 1/ 5回 → 1/ 16回 ④ 【企画展】客員教授・西山寛紀展
- 1/ 18回 → 1/ 24回 ④ 第六回 芸術教養領域 レビュー展 be・studio

- 4/ 1回 → 4/ 5回 ④ アラムナイコレクション
- 4/ 7回 → 4/ 12回 ④ 2022年度「プロジェクト2」授業成果展 北名古屋市回想法センター作品展
- 5/ 12回 → 5/ 17回 ④ 芸術教養領域 第五回 レビュー 選抜展
- 6/ 2回 → 6/ 14回 ④ 乳児保育・ゼミ (モンテッソーリでの手作り教材など様々)での作品紹介
- 7/ 14回 → 7/ 19回 ④ メタル7人展
- 7/ 28回 → 8/ 2回 ④ 第六回 芸術教養領域 レビュー展
- 9/ 22回 → 9/ 27回 ④ 林 汰一 個展
- 10/ 6回 → 10/ 11回 ④ 書道アート展 II
- 10/ 13回 → 10/ 18回 ④ 熊崎敦士展(仮)
- 10/ 19回 → 11/ 15回 ④ 【企画展】anno-labo
- 11/ 17回 → 11/ 22回 ④ こどもxfukushi(ふくし)xart(あーと)作品展(仮)
- 11/ 24回 → 11/ 29回 ④ 「新博物館誌」展
- 12/ 1回 → 12/ 6回 ④ 第二回 名古屋芸術大学留学生グループ展
- 12/ 8回 → 12/ 13回 ④ 時を迎える一楊アジョ個展
- 12/ 15回 → 12/ 20回 ④ SD合同課題展
- 1/ 5回 → 1/ 10回 ④ 留学生別科 作品展
- 1/ 12回 → 1/ 17回 ④ 名古屋芸術大学 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域 リベラルアーツコース 第四回 卒業研究展
- 1/ 19回 → 1/ 24回 ④ 舞台美術模型で見る物語
- 2/ 16回 → 2/ 25回 ④ 2023年度卒業生表彰メダル+ミニメダル お披露目展



NUA ART SHOP

Info

Art & Design Center West内
Open 12:15-18:00 / 木・日曜日休館
※お支払いは現金のみとなります

名古屋芸術大学 Art & Design Center

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568] 24-2897 FAX [0568] 48-0173

Ble Vol.57 発行日 2023年3月30日

編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts
デザイン/印刷 サンメッセ株式会社

